

沖合スルメイカ漁業試験（昭和43年度）

川口 哲夫 ・ 小田切忠夫

日本海沖合の極前線漁場におけるスルメイカの資源、漁場構成および生態などの変動機構を調査し、沿岸漁業の沖合化、沖合底引網漁業の休漁期のつなぎ漁業などの育成を目的とする。

方 法

使用船舶 試験船第一鳥取丸（99.14トン、450馬力）
使用漁具 サンパー全自動イカ釣機 3台 手動イカ釣機 12台
調査海域 大和堆を中心とする日本海中央海域を主に能登沖・隠岐北方海域において実施した。
調査期間 昭和43年6月7日～9月15日
人 員 調査員 1名、乗組員12名

結 果

1 試験操業の結果

昭和43年度は調査期間中に11航海を行ない、延操業日数は39日であった。総漁獲高76.895尾（2,945箱）、総水揚金額は2,125,000円となり1尾当りの平均単価は25.0円（1箱当り77.3円）である。このことを前年度（昭和42年度）の調査結果と比較すると漁獲高では1,147箱、水揚金額では、1,008,000円の増加を示している。

2 漁 況

山陰沖合における春季のスルメイカ漁況は例年と異なり、4月下旬より隠岐島近海において初漁をみ、5月には盛漁期となった。このため6月7日～9日にかけての第1次航海は思わしくなく21箱であった。第2次航海はスルメイカ共同調査を兼ね竹島近海より大和堆海域にかけて調査を実施し大和堆で1夜のみ操業を行ない71箱の漁獲をした。

6月下旬～7月上旬にかけては、能登沖に漁場が形成され第3次～第4次航海はこの漁場に出漁したが漁獲成績は悪かった。7月中旬～9月上旬にかけての第4次～第10次航海は、大和堆～沖大和堆において操業しこの漁場では8月上旬から漁況は良好となり1航海当り600～700箱の

漁獲をした。9月中旬には漁場が南下し隠岐島北方の北緯38度を中心とした海域に形成され漁況も好調であった。

3 海況と漁場

昭和43年度の春～夏季にかけての西部日本海沖合においては、異状冷水現象が認められ例年に比較して水温は1～3℃低目に経過した。このため例年北部日本海において形成される沿岸海域のスルメイカ漁場が隠岐島～能登沖に形成された。

一方大和堆を中心とする日本海中央海域の沖合スルメイカ漁場においても極前線の位置が、北緯38度30分～北緯39度00分の間であって例年に比較すると南下しており漁場も広い範囲に形成され、特に9月中旬からは隠岐島北方の北緯38度を中心として極前線が認められこの海域において漁場が形成された。

4 生物調査

調査期間中に漁獲されたスルメイカの中から体長組成調査1,932尾、多項目調査454尾について調査を実施しその結果は図-1～図-3に示した。

外套背長の季節別、海域別の変化は6月上旬隠岐島近海では17～19cmにモードがあり、6月中・下旬大和堆では22～23cmにモードを示しており、同時期の能登、隠岐島近海で漁獲されたスルメイカはモード19～20cmとやや小形である。

7月上旬～下旬の大和堆海域では20～22cm台にモードが認められているがこれは例年に比較して魚体が2～3cm小型であった。しかし8月上旬以後は沖大和堆～大和堆にかけて25cmにモードを有する大型なスルメイカ魚群が出現した。

次に性腺の成熟度についてみると、6月上旬の隠岐島近海で漁獲されたスルメイカでは、雄は6～7g台、雌は10～24g台を示し成熟群である。6月中旬～7月下旬にかけて雄は0～5g台、雌は0～1g台がほとんどで未熟群である。8月上旬よりは雌・雄ともに性腺は次第に大きくなり、雄では5～10g台、雌では8月にはまだ0～2g台であるが9月には2～5gとやや増加している。

図-1 スルメイカ胴長組成

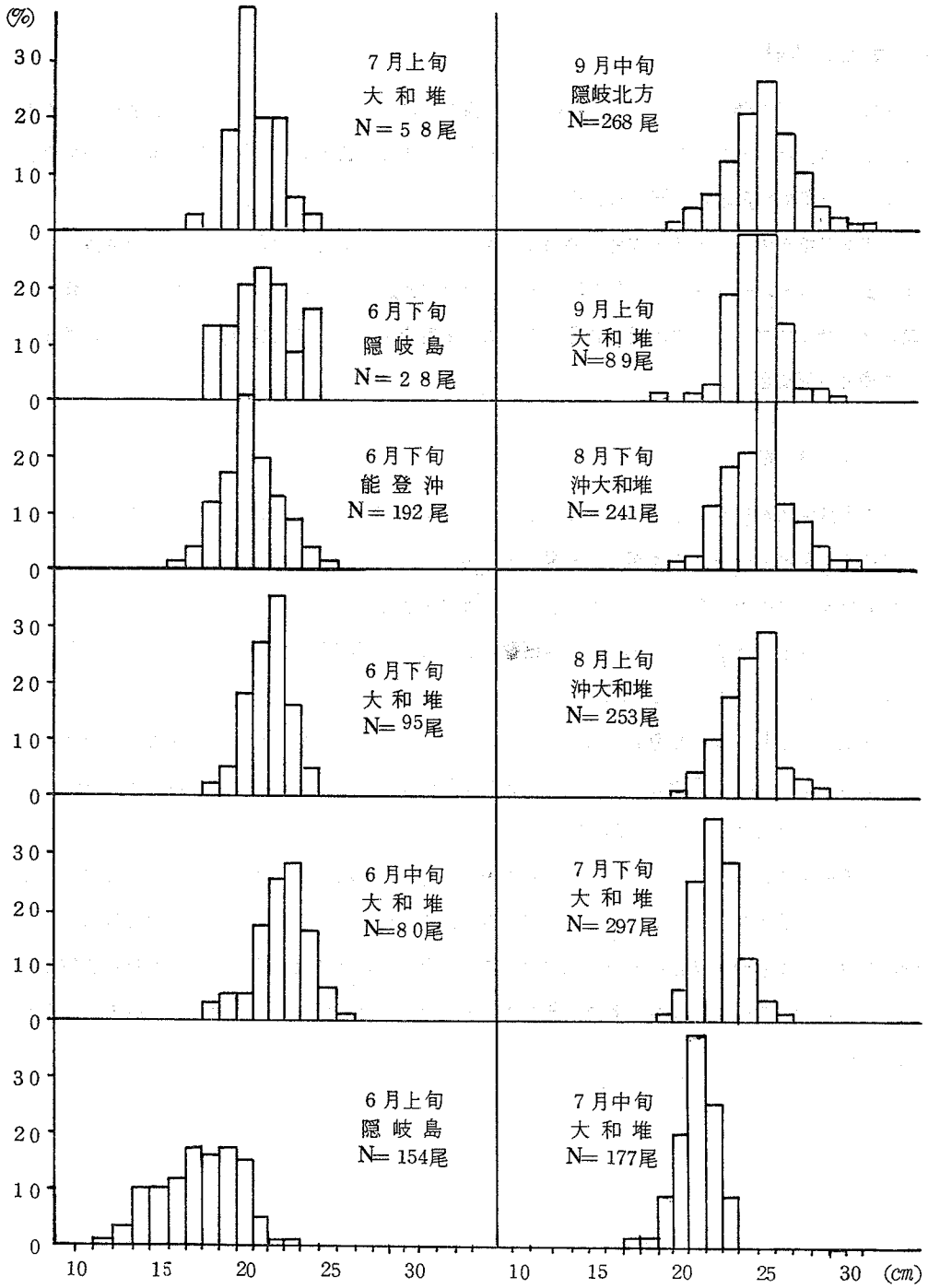


図-2 スルメイカ体重組成

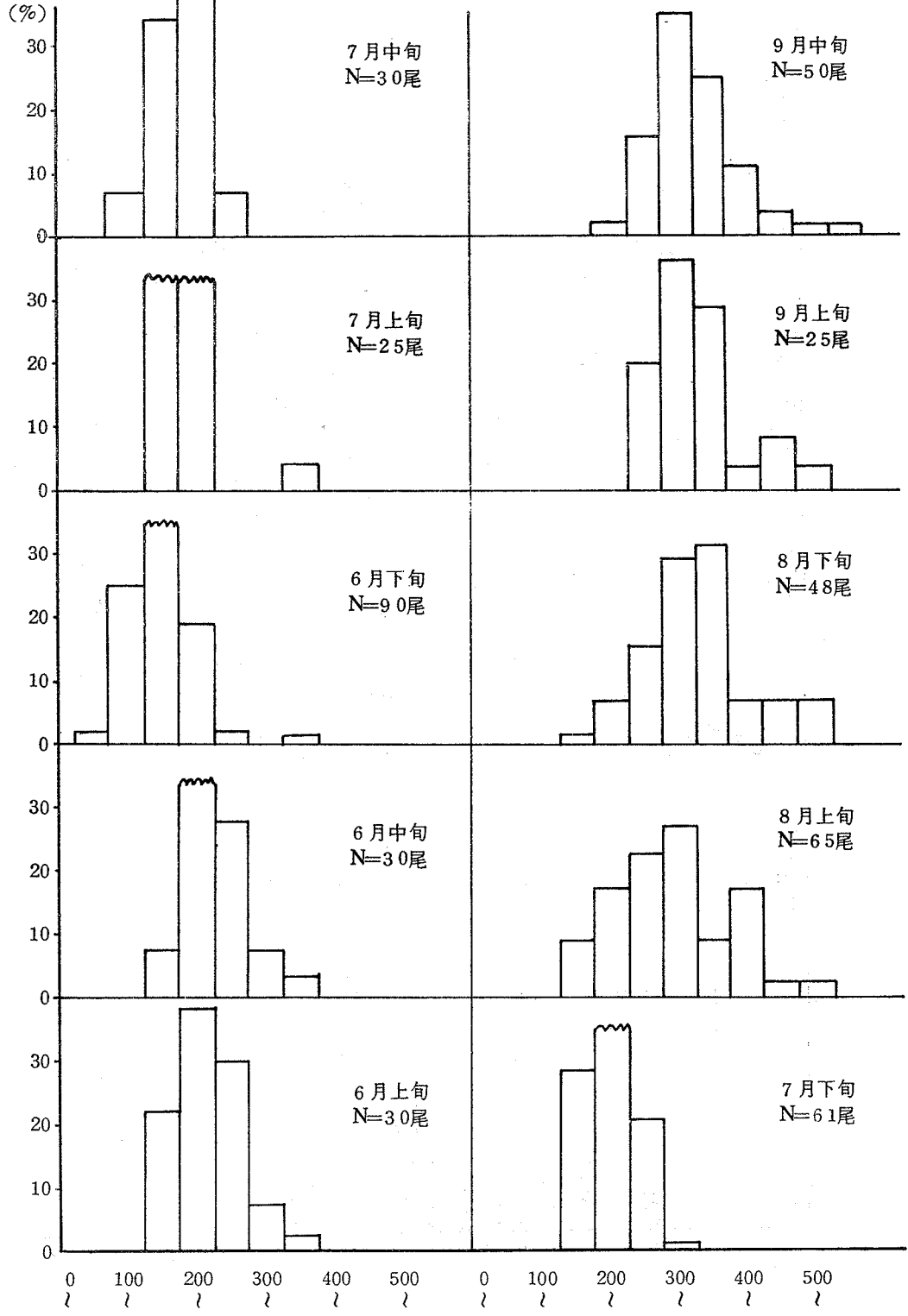
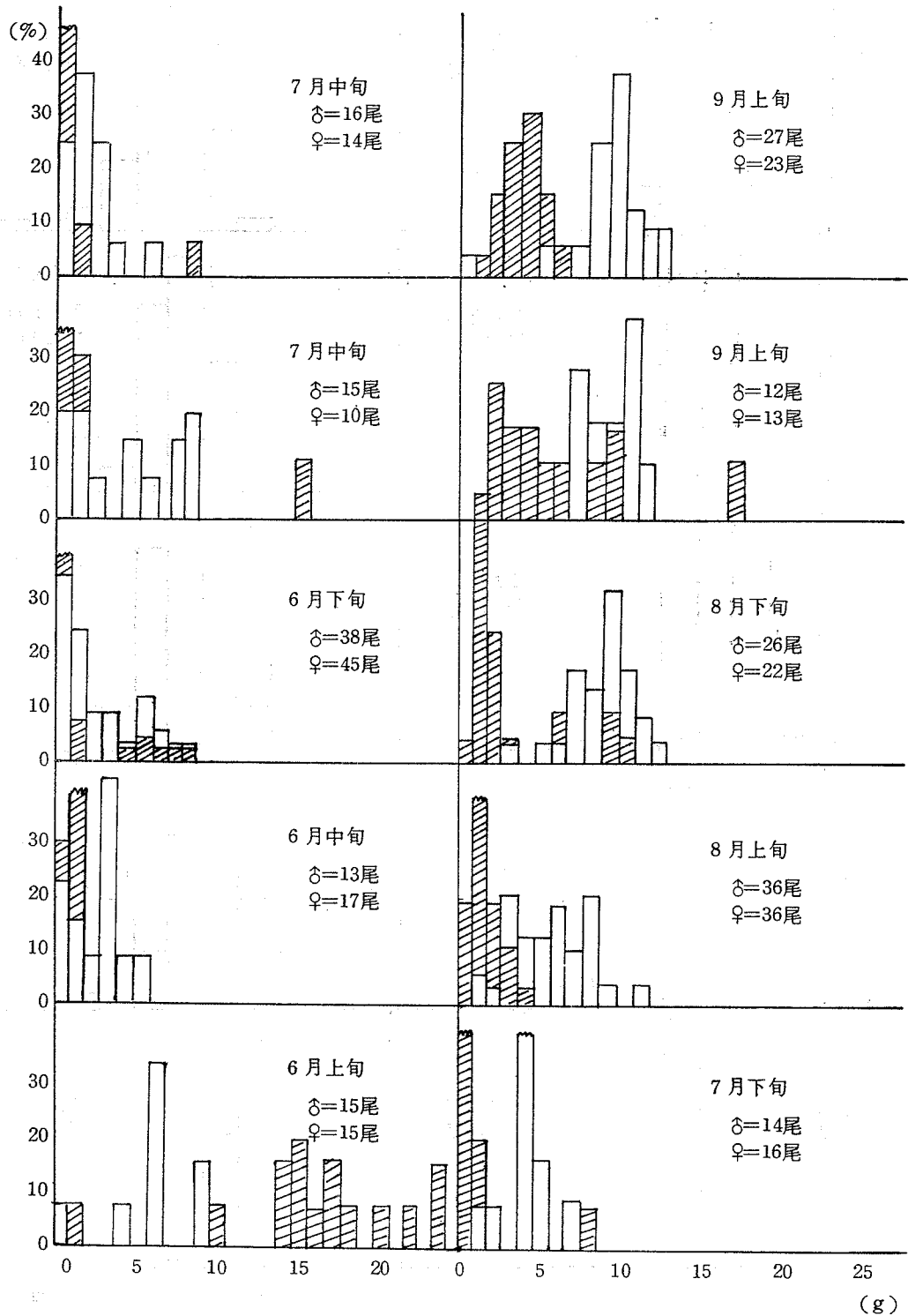


図-3 スルメイカ性殖腺重量組成



5 標識放流

スルメイカの標識放流は、日本海中央海域において940尾を5回にかけて放流した。

再捕報告は表-2に示したように対馬比田勝沖SE7哩において1尾、杓岐勝本町若宮灯台より13度、14マイルの海域で1尾、上対馬一重港NE10哩で1尾漁獲され、いずれも対馬海峡において再捕されている。又放流直後放流地点で再捕されたものが6尾あった。

表-1 スルメイカ標識放流表

放流月日	位置	標識(尾)	放流尾数
6月15日~16日	N 39° 05'	(日) 091	100尾
	E 134° 35'	(日) 092	100尾
8月22日	N 39° 40'	(日) 093	100尾
	E 133° 34'	(日) 094	40尾
9月7日~8日	N 38° 38' E 133° 35'	(日) 095	100尾
		(日) 096	100尾
		(日) 097	100尾
9月12日~13日	N 38° 23'	(日) 098	100尾
	E 133° 09'	(日) 099	100尾
9月14日	N 38° 07'	(日) 100	100尾
	E 133° 05'		
			940尾

表-2 スルメイカ標識放流再捕結果

標識(尾)	再捕年月日	再捕場所	再捕者名	放流年月日	位置
(日) 96	43年9月7日	放流位置	鳥取水試	43.9.7	N38°38' E133°35'
"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"
(日) 97	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"
(日) 97	43年11月4日	対馬比田勝沖SE7哩	扇保	"	"
(日) 98	43年10月6日	杓岐勝本町若宮灯台より13度14哩	阿田岩吉	43.9.12	N38°23' E133°09'
(日) 99	43年10月5日	上対馬一重港NE10哩	春田敬一	"	"
(日) 99	43年9月12日	放流位置	鳥取水試	"	"

6 業者船の操業状況について

昭和43年度の鳥取県における沖合スルメイカ出漁船は、専業船3隻、沖合底曳漁船14隻の計17隻であった。これらの漁船による漁獲状況については表-3に示したように、昭和43年4月～44年2月にかけて操業が行なわれ、延航海数340航海、漁獲高238万箱、水揚金額12,700万円の漁獲であった。又1航海当りの平均漁獲高についてみると漁獲高700箱、水揚金額38万円となり、1箱当りの平均単価は538円（平均25尾入り）である。

表-3 昭和43年度鳥取県船（大型船）によるスルメイカ漁獲高

月	航海数	漁獲高（箱）	金額（万円）	一航海当平均		1箱当単価 （円）
				漁獲高（箱）	金額（万円）	
4	2	491	130	246	65	264
5	20	5,218	2,679	261	134	513
6	36	15,618	5,750	434	160	368
7	53	24,231	11,180	457	211	461
8	51	35,888	21,670	704	425	604
9	66	65,023	39,000	985	591	600
10	42	28,887	11,372	688	271	394
11	15	18,570	10,602	1,238	707	571
12	24	25,120	13,841	1,047	577	551
1	22	17,656	10,754	803	489	609
2	9	662	749	74	83	1,131
計	340	237,364	127,727	698	376	538

スルメイカ専業船では、最も成績の良い船が4月下旬～2月中旬にかけて操業を行ない約2,250万円（56航海、39,665箱）の漁獲をし、底引船では最高792万円（21航海、16,000箱）、最低126万円（9航海、3,500箱）であるが一般に500～600万円台の水揚となっている。沖合底引漁船の操業期間は5月下旬～10月下旬となっているが、大部分の漁船は5月下旬まで底引漁業を行ない6月にスルメイカ出漁の為の整備を行ない7月より出漁し、ズワイガニ漁開禁の11月上旬から再び底曳網漁業を行なっている。スルメイカ漁獲高の月別の変動についてみると総漁獲高では4月より漁獲は次第に増加し9月の65,000箱をピークとして次第に減少している。しかし1航海当りの平均漁獲高については、図-4の通り4～7月では500箱以下である

次に、標本船による漁場の動きとスルメイカ群の分布密度について、図-5よりみると5～6月では能登沖を中心としてやや濃密な沿岸スルメイカ漁場が形成されており、7月に入ると能登沖の沿岸漁場と大和堆を中心とした沖合漁場に別れて操業が行なわれており、特に沖大和堆漁場では分布密度が高い。

8月では、北緯39度～40度、東経133度～134度に囲まれた海域に集中し分布密度も高い漁場を形成している。9月には漁場は次第に南下し、北緯38度～39度30分、東経133度～134度に囲まれた海域で操業が行なわれ、又竹島沖合にも漁場が形成され魚群も濃密であった。10月に入って漁場はさらに南下し竹島沖合で操業が行なわれたが、魚群密度はうすく漁況は悪化した。

11月には隠岐北方50マイルの海域を中心として沖合スルメイカ（秋イカ）南下群の濃密な漁場が形成され漁況は急激に好転した。

12月に入って秋イカ群に続いて隠岐島周辺海域には濃密な冬イカ群の来遊がみられ漁況は引き続き活況を呈した。しかし2月に入ると冬イカ群もほとんど南下し隠岐島周辺漁場も漁況は悪くなり2月中旬には終漁となった。

図-4 昭和43年度鳥取県船によるスルメイカ漁獲成績
(1航海当月別漁獲高)

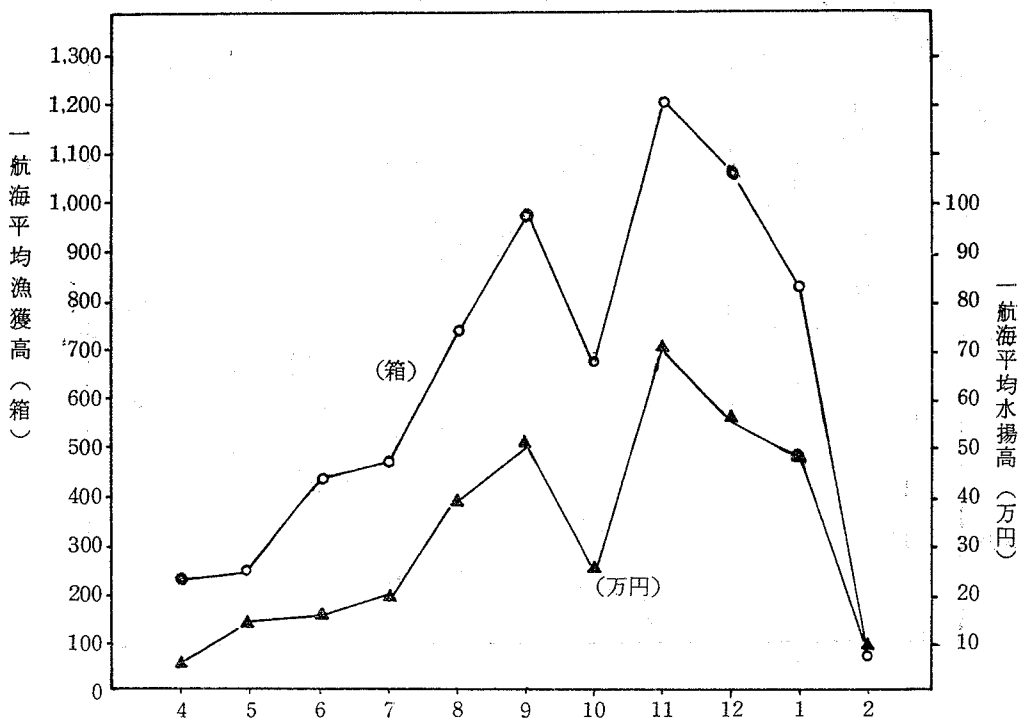


図-5 標本漁船による操業位置とスルメイカ密度分布

